

# 建設業が働きやすくなるつぽんと?

「仕事がキツイ」「休みにくい」といったイメージをお持ちの方に、建設業界の最新動向をご紹介します。

なつているつ  
ぽんと?

## 「長時間労働」と「人材不足」の解消へ



データを調べてみよう!

グラフ1:  
建設業の月間実労働時間と月間出勤日数  
※厚生労働省のデータから作成(事業所規模5人以上)



グラフ2:  
建設業の月間給与額  
※厚生労働省のデータから作成(事業所規模5人以上)



## 「女性が働きやすい」環境づくりへ



女性社員に聞いてみよう!

### 鈴木 絵理さん

当初は住宅メーカーを志望していたが、あるゼネコンの構造見学会への参加を機に、多様な建物に携わることや、雰囲気の良さに惹かれて同社に入社。現在は職場の先輩と結婚し、三児の母として仕事と育児を両立中。



初めての子どもを授かったのは入社3年目のこと。当時は施工管理を担当しており、上司に妊娠を告げ、産休・育休を取つてまた復帰したいと相談した時は緊張しました。しかし、「おめでとう!」と祝福してもらえた、「温かい会社でよかったです」と改めて感じました。

育休中は初めての育児や保育園探しで大変でしたが、復帰した際は、また社会とつながれることが嬉しかったです。育児との両立に苦労は尽きないものの、夫や職場の皆さんのサポートもあり、仕事を続けることができました。

その後、2人目3人目を授かり、子育てとの両立を考慮して、受付業務や広告関係の部署に異動しましたが、現場監督として建設業の最前線にいた経験がとても役に立っています。一方で、子どもの発熱などに備え、常に時間の使い方や仕事の優先順位を意識して働くようになり、かえって生産性が高まつたと思い



「周囲に頼ること」「できるだけ具体的にどうしてほしいかを伝えること」が大切だと思います。職場でも家庭でも、周囲の人たちは「何があれば助けてあげたい」と思ってくれているもの。「一人で抱え込まずに、自分から助けて!」と声を上げることの重要性に、最近になって気づきました。

## 「女性が働きやすい」環境づくりへ



女性社員に聞いてみよう!

### 鈴木 絵理さん

当初は住宅メーカーを志望していたが、あるゼネコンの構造見学会への参加を機に、多様な建物に携わることや、雰囲気の良さに惹かれて同社に入社。現在は職場の先輩と結婚し、三児の母として仕事と育児を両立中。



初めての子どもを授かったのは入社3年目のこと。当時は施工管理を担当しており、上司に妊娠を告げ、産休・育休を取つてまた復帰したいと相談した時は緊張しました。しかし、「おめでとう!」と祝福してもらえた、「温かい会社でよかったです」と改めて感じました。

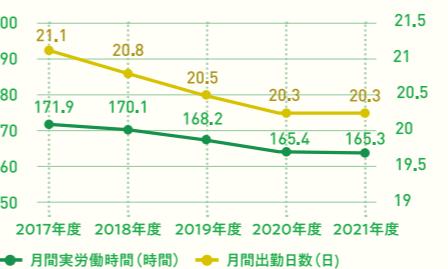
育休中は初めての育児や保育園探しで大変でしたが、復帰した際は、また社会とつながれることが嬉しかったです。育児との両立に苦労は尽きないものの、夫や職場の皆さんのサポートもあり、仕事を続けることができました。

その後、2人目3人目を授かり、子育てとの両立を考慮して、受付業務や広告関係の部署に異動しましたが、現場監督として建設業の最前線にいた経験がとても役に立っています。一方で、子どもの発熱などに備え、常に時間の使い方や仕事の優先順位を意識して働くようになり、かえって生産性が高まつたと思い



データを調べてみよう!

グラフ1:  
建設業の月間実労働時間と月間出勤日数  
※厚生労働省のデータから作成(事業所規模5人以上)



グラフ2:  
建設業の月間給与額  
※厚生労働省のデータから作成(事業所規模5人以上)



建設業界に対し、「残業が多い」「休日がない」といったイメージは根強いものがあるようですが、かつてそうした状況があったことは否定できませんが、グラフ1に見られるように、近年では建設業界でも「働き方改革」が進んでおり、実労働時間や出勤日数が年々減少を続けています。

加えて、労働基準法の改正により、これまで建設業界では猶予されてきた、時間外労働の上限規制(月45時間、年360時間)が2024年4月から適用されるため、建設業における時短化はさらに加速することが期待されています。

すでに日本建設業連合会では2022年3月に「時間外労働削減ガイドライン」の策定と合わせて自主規制目標を改定し、上限規制に前倒しで対応できるよう取り組んでいます。また、

一方で、少子高齢化によるい「休日がない」といったイメージは根強いものがあるようですが、かつてそうした状況があつたことは否定できませんが、グラフ1に見られるように、近年では建設業界でも「働き方改革」が進んでおり、実労働時間や出勤日数が年々減少を続けています。

労人口の減少を背景に、建設業の扱い手不足は今も続いている。一方で、労働人口の減少を背景に、建設業の扱い手不足は今も続いている。建設二ーズは堅調に推移すると見られていることから、優秀な人材を確保し、定着してもらおうと、グラフ2に見られるように、建設業界の平均賃金は上昇傾向にあります。ここ数年はコロナ禍の影響もあって足踏み状態ですが、2021年度の全産業分野の平均値(319,461円)と比較すれば、待遇に恵まれていることは明らかです。

就職先として建設業界に興味をお持ちの方は、こうしたデータも参考にしてみましょう。

「周囲に頼ること」「できるだけ具体的にどうしてほしいかを伝えること」が大切だと思います。職場でも家庭でも、周囲の人たちは「何があれば助けてあげたい」と思ってくれているもの。「一人で抱え込まずに、自分から助けて!」と声を上げることの重要性に、最近になって気づきました。